

## [ その他 (実践報告) ]

## 令和3年度長岡崇徳大学版パパママサークルの実践結果とパパママの子育てニーズ

佐藤初美 高島葉子 柳原眞知子 伊藤文子 斎藤まさ子 内山卓秋  
長岡崇徳大学 子育て支援事業

Reiwa 3rd year Nagaoka Sutoku University Daddy Mama Circle practice progress  
and daddy mom's child-rearing needs

Hatsumi Sato, Yoko Takashima, Machiko Yanagihara, Ayako Ito,  
Masako Saito, Takaaki Uchiyama  
Nagaoka Sutoku University Child-rearing support project

要旨：本学では、育児支援の一環として教員と学生が従事し、月1回パパママサークルを開催している。パパママサークルの実践結果と、そこから見えるパパママの子育てニーズの一端をまとめ、子育て支援事業の継続・発展の一助とする。

令和3年度の開催回数は14回、参加人数は77組153名であった。参加満足度、夫婦で共に子育てする意識は143名(93.4%)が益々高まったと回答した。パパママサークル参加者の感想を、全体、アイスブレイキング、沐浴体験、参加費に分けて集約した結果、参加者は体験を通して育児の大変さを実感することで協力する気持ちの高まりを得ていた。またアイスブレイクを他者との交流や自分の思いを口に出す良い機会と感じていた。パパママの子育てニーズは、コロナ禍で教育や交流の場が制限されたパパママにとって、育児の大変さの実感と共に、育児不安を軽減したい、他のパパママと交流したい、実際に体験して沐浴方法を学びたい、にあると示唆された。

キーワード：パパママサークルの実践結果、パパママの子育てニーズ

Keywords：Daddy Mama Circle practice progress, Daddy mom's child-rearing needs

## 1. はじめに

### 1. 長岡崇徳大学子育て支援事業の背景

長岡崇徳大学では、周産期にある女性のメンタルヘルスのサポート(吉田, 2017)や「健やか親子21(第2次)」の目指す切れ目ない妊産婦乳幼児への保健対策(厚生労働省, 2018)として、また、コロナ禍と妊娠育児の現状を踏まえ、令和2年度より、「母子・家族、支援者が共にあゆむ周産期母子のメンタルヘルスに関する支援事業」を実施している。令和2年度の実施内容はすでに報告書としてまとめ、配布している(長岡崇徳大学子育て支援事業, 2021)。長岡崇徳大学では引き続き、大学における地域貢献の一環として「子育て支援事業」を継続実施しており、中でも「長岡崇徳大学版パパママサークル」(以下「パパママサークル」とする)は地域のニーズが高い事業となっている。

### 2. 長岡崇徳大学版パパママサークル発足の経緯

「パパママサークル」とは、プレママ・プレパパである夫婦で子育ての技術を楽しく学ぶことにより、子産み・子育てに対する不安を軽減し、共に子産み・子育てしていく意識を高めるための一助とすることを目的とした、沐浴やおむつ交換などの育児技術体験の場である。同時に、参加者同志が共に子産み・子育てについての期待や不安などを共有し交流を図るプログラムがあり、ネットワークづくりのきっかけとなる場である。

このサークルは、事業の背景でも述べた令和2年度新潟県大学魅力向上支援事業に採択された、「母子・家族、支援者が共にあゆむ周産期メンタルヘルス」支援事業の一環であり、子育て関係者が立場を超え協力し合うためのサポーター養成講座の一つ、「先輩パパママ養成講座」

連絡先：〒940-2135 新潟県長岡市深沢町2278番地8  
E-mail: satou-h@sutoku-u.ac.jp  
TEL: 0258-46-6666 (内6622) FAX: 0258-86-6637

として2020年11月に発足した。

### 3. 「長岡崇徳大学版パパママサークル」と長岡市が実施しているパパママサークルの関係

長岡市では、沐浴育児体験の場として、毎月1回、パパママサークルを開催している。折しも本学の子育て講演会において、発言者として依頼した子育て支援担当者から、「コロナ禍で分娩施設での産前教育（母親学級・両親学級）や、分娩立ち合い、入院中の面会中止が相次ぎ、市のパパママサークルへの申込者が殺到し、定員オーバーのため止む無く参加を断っており、心苦しい思いをしている」という発言があった。そのため、パパやママの育児に向けての不安を少しでも取り除きたいという思いから、本学でもパパママサークルをできる範囲で開催することとした。

本学でのパパママサークル参加者募集にあたっては、長岡市教育委員会子ども未来部子ども・子育て課の担当者と連絡を取り合い、長岡市パパママサークルに参加できなかった対象者に対して、リーフレットを用いて長岡崇徳大学のパパママサークルを紹介していただくこととした。

### 4. 実践報告の目的

令和2年度のパパママサークル取り組み実績では、毎回募集上限6名を超える申し込みがあり、特にアイスブレイキングやモデル人形を使用した沐浴実施に関する評価が高かった。本報告書では、事業背景、パパママサークル発足の経緯、長岡市との関係性、令和2年度の実績を踏まえて、令和3年度のパパママサークルの実践結果とそこから見えるパパママの子育てニーズの一端をまとめた。実践結果を報告することによって、子育て支援事業の継続・発展の一助とすることを目的とする。

## II. 令和3年度長岡崇徳大学版パパママサークルの実際

### 1. 開催日時と実施回数

開催日時は2021年4月～2022年3月の毎月1回土曜日10:00～12:00と、2022年1月～2月の13:30～15:30であり、実施回数は計14回であった。



写真1 会場の様子

### 2. 募集方法

募集方法は、長岡市からの紹介を受けたパパママが本学子育て専用メールに申し込む、または、本学ホームページに掲載の子育て専用メールに直接申し込む方法を取り、本学のキャパシティを考慮して、市報への掲載は行わないこととした。なお、募集定員は1回の開催について4～6組とした。

募集にあたっては、沐浴布又はフェイスタオル1枚、湯上がり用のバスタオル1枚、濡れたタオル類を入れるビニール袋1枚、母子健康手帳、事務経費500円を持参して頂くように明示した。

### 3. 担当者および役割分担

担当者および役割分担は以下の通りである。

教員は参加希望者の事前受付と返信、会場準備、資料作成と準備、当日受付、司会、パパママの育児体験・妊婦体験の見守り、沐浴手順の説明、パパママの沐浴体験の見守り、アンケート集計を実施した。

世話人とは有償で依頼した子育て支援に関心のある市内在住の助産師であり、パパママの育

児体験・妊婦体験の指導，パパママの沐浴体験指導等の実施を担当した。

学生サポーターとは，教員の声掛けにより集った学生ボランティアであり，新生児のケア技術習熟度に応じて教員から事前に育児技術やサポート内容の説明を受けた者である。当日の受付，パパママを会場へ誘導，パパママの育児体験や妊婦体験の見守りと補助，沐浴準備誘導，室内消毒や換気などを含めた環境整備を実施した。

事務局は参加希望者の事前受付，会場準備，当日のパパママの誘導，写真撮影，参加証書の作成準備を行った。

#### 4. 実施内容

参加者には当日のスケジュールを配布した。スケジュールの内容は，表1の通りである。

表1 スケジュールの一例

時間	内容
10:00～	・オリエンテーション，配布資料の確認 ・会代表より主旨説明（会費についても説明） ・スタッフ紹介
10:10～	<アイスブレイキング> ・リラクゼーション法の紹介 ・グループごとに自己紹介 未来のパパへ ①名前 ②妊娠を知ったときの気持ち 未来のママへ ①名前 ②予定日・妊娠週数 ・出産病院 ・赤ちゃんへのメッセージカード作成
10:30～	本学オリジナル沐浴動画鑑賞（20分程度）
10:55～	・母子看護学実習室にて沐浴体験 ・空き時間を利用して育児体験や妊婦体験 ・終了後アンケート記入
11:45～	・諸制度説明 （新生児訪問の勧め：出生連絡票について） ・アンケート記入および感想発表 ・参加証書授与
12:00	終了

##### 1) 会場設定・配布資料

新型コロナウイルス感染症対策として，健康チェック表による体調確認，手指衛生などの基本的な感染対策，三密を避ける工夫を行った。机の配置は，1組のパパママが1つの机を使用し，他のパパママとは距離を保ちながらも互いの顔が見えるような配置を心掛けた。配付資料

は，本日のスケジュール，テキスト（沐浴の方法），アンケート用紙，メッセージ用カードであった。

##### 2) アイスブレイキング

パパママの緊張緩和と参加者の交流の促進を目的に，自己紹介と赤ちゃんへのメッセージカード作成を行った。自己紹介の内容は自由であるが，パパには名前と妊娠を知った時の気持ち，ママには名前と妊娠週数，予定日，出産予定病院を入れて頂いた。メッセージカードの作成は，パパとママから赤ちゃんへのメッセージをカードに記入していただいた。その後，同意のあるパパママ1～2組から発表して頂いた。

##### 3) 沐浴体験

パパママが沐浴を体験する際に実施しやすいよう，パパママにわかりやすい言葉を用いて沐浴の目的や方法を収録した動画を作成し，動画を視聴してから沐浴体験を実施して頂いた。参加者の人数によって2～3つの沐浴槽を使用し，各沐浴槽を教員あるいは世話人が担当してパパママの沐浴体験を見守った。家庭には沐浴槽が無いことを踏まえ，流しや畳の上にベビーバスを設置して沐浴体験するグループも作った。



写真2 沐浴動画を鑑賞するパパママ



写真3 ママが見守りパパが沐浴

#### 4) 育児体験・妊婦体験

教員及び学生がパパママの空き時間を利用して、モデル人形の抱っこやおむつ交換、着替えや排気の仕方、パパの妊婦体験（妊婦ジャケット）の装着介助等を実施した。



写真4 沐浴の待ち時間に育児体験

#### 5) パパママへのアンケート内容

実施後には参加者にアンケートの協力を頂いた。

アンケートの内容は「1. あなたはパパですかママですか」、「2. 本企画をどのように知りましたか」、「3. パパママサークルは全体として満足していただけただけでしょうか」、「4. アイスブレーキングの感想をお聞かせください」、「5. 沐浴の実施についての感想をお聞かせください」、「6. 夫婦（パートナー）で一緒に子育てしていく気持ちに変化はありましたか」、「7. 実施側の新型コロナウイルスへの対応について

いかがだったでしょうか」、「8. 崇徳大学で、パパママサークルに参加したご夫婦で出産後集まる機会があった場合の参加の意思をお聞かせください」、「9. ご夫婦1組で500円程度の参加費を頂いておりますが、ご納得して頂けますか」、「10. その他、他に学びたいこと、企画で気を使って欲しいことなど何でもご自由に」、の10項目であった。

#### 6) 学生サポーターの学びの確認

パパママサークル終了後に、学生サポーターが実施した内容と学びを口頭と文書で確認した。

### III. アンケート結果の記載にあたっての倫理的配慮

参加者であるパパママには、アンケート記載にあたり個人が特定されない範囲で実践活動報告として使用させていただくことの上で了承を得た。写真撮影に関しては、許可を得た上で個人が特定されないように撮影した。

### IV. 結果（活動の評価）

#### 1. パパママサークル参加者および業務者数

令和3年度のパパママサークル参加者数と業務者は以下の通りであった。

表2 令和3年度パパママサークル参加者数・担当者数

開催日(土曜)	パパママ	教員数および*事務局数	学生サポーター
4月17日	2組	教員3名+事務局1名	2名
5月8日	5組	教員4名+事務局1名	なし
6月12日	4組	教員2名+事務局1名	2名
7月17日	7組	教員3名+事務局1名	1名
8月14日	8組	教員3名+事務局1名	4名
9月18日	6組	教員3名+事務局1名	3名
10月16日	5組	教員3名+事務局1名	2名
11月20日	9組	教員3名+世話人1名+事務局1名	2名
12月11日	5組	教員3名+事務局1名	2名
1月15日	Am9組	教員4名+世話人1名+事務局1名	4名
	Pm2組	教員2名+世話人1名+事務局1名	なし
2月19日	Am6組	教員2名+世話人1名+事務局1名	4名
	Pm4組	教員2名+世話人1名+事務局1名	なし
3月12日	5組	教員2名+世話人1名+事務局1名	2名

パパママサークルの開催回数は14回であり、参加したパパママは77組153名（1組はママ

だけで参加) だった。業務に従事したのは、教職員延べ52名、専門職世話人延べ5名、学生サポーター延べ31名だった。

## 2. アンケート結果 (パパママの感想より)

アンケートの回答は表3の通りであった。

表3 アンケートの回答 (N = 153)

質問項目	選択肢	人数 (名)
紹介元 (参加動機) 複数回答あり	長岡市	142
	知人	6
	広告 HP	3
	その他	3
会参加の満足感	満足	143
	どちらかと言えば満足	8
	どちらかと言えば不満足	0
	不満足	0
	無回答	2
参加したことによる子育て意識変化	益々高まった	143
	不変	9
	気が重くなる	0
	無回答	1
パパママサークル同窓会参加希望	あり	71
	なし	10
	わからない	68
	無回答	4
新型コロナウイルス感染対策	満足	138
	やや満足	8
	どちらでもない	3
	やや不満	0
	不満	0
参加費の納得感	はい	147
	いいえ	1
	無回答	5

### 1) 長岡崇徳大学版パパママサークルの紹介元 (参加動機)

本学パパママサークルへの参加動機は、複数回答で長岡市からの紹介が142名、知人の紹介が6名、HPや広告などが3名、その他は3名で妻の誘いであった。

### 2) 会参加の満足感

パパママサークル参加の満足感は、パパママ併せて143名(93.4%)が満足と答えており、不満、どちらかと言えば不満との回答はなかった。

### 3) 参加したことによる子育て意識変化

共に子育てする事への意識変化では、パパママ併せて143名(93.4%)が益々高まったと答

えている。不変は9名(5.8%)であり、もともと協力する意識が高かったため変わらないという返答であった。気が重くなったとの回答はなかった。

## 4) パパママサークル同窓会参加希望

### (1) 同窓会への参加希望の人数内訳

パパママサークルに参加したパパママで出産後集まる機会があった場合の参加の有無を確認したところ、71名(46%)が参加の意思を示した。しかし68名(44%)がわからないと回答し、10名が無しと回答した。

### (2) 参加希望の理由

パパママサークル同窓会参加希望の理由は表4の通りであった。

表4 パパママサークル同窓会参加希望理由

参加希望の有無	理由	人数 (名)
希望あり	・パパママサークル同様に有意義だと想像する	4
	・情報共有や悩みの共有が可能な、交流のきっかけを望んでいる	23
	・知り合った専門家に相談したい	4
	・内容による	1
希望なし	・SNSでコミュニティは取れるからわからない	1
	・勤務地や所在地の関係で場所と時間が合えば、ぜひ参加したい	2
	・足を運ぶ体力気力があるかどうか	1
	・コロナ感染状況次第	1

\*パパとママの区別を付けずに集計した。

参加希望ありの理由で最も多かったのは、「情報共有や悩みの共有が可能な、交流のきっかけを望む」が23名であった。参加したパパママサークルが有意義だった背景や、知り合いになった専門家に相談したいという思い、仲間作りを期待する思いも表れていた。

### 5) 新型コロナウイルス感染対策

新型コロナウイルス感染対策に関して138名(90.1%)が満足と答え、不満、やや不満との答えはなかった。

### 6) パパママサークルに参加した感想

表5はパパママサークル参加者のアンケートのうち、自由記載を集約したものである。全体の感想、アイスブレイキングの感想、沐浴体験を通じた感想、参加費用に関する感想に分けている。

表5 パパママサークル参加者の感想

項目	感想の集約	< >要約
全 体	<プログラム構成の適切さ>	・学習のスピードや量と内容が丁度良く、小人数の指導でとてもよく理解できた
	<会の雰囲気やスタッフの優しさ・丁寧さ>	・優しく丁寧な説明で分かりやすく、質問しやすい雰囲気で楽しく学べた ・学生のボランティアの方が受付前から優しくしてくださって有難かった
	<育児不安の軽減>	・育児体験の知識を身につけられて心配が薄れた ・病院や市の学級に参加できず不安だったが、機会を設けていただき有難かった ・夫に沐浴やおむつ交換をしてもらえて、一緒にできる育児が増えた
	<子どもを迎える実感の強まり>	・体験することで赤ちゃんを迎える実感が湧いた ・難しいこともあったが可愛くて涙が出そうだった ・共同作業の必要性を感じ、赤ちゃんとの生活が楽しみになった ・子育てを具体的に想像でき2人で頑張ろうという思いが強くなった
ア イ ス ブ レ キ ン グ	<改めて思いを口にする事の良い機会>	・改めて話し合う時間が作れたことが良かった ・家とは異なる主人の様子も知ることができ頼もしかった ・普段話すことができないことも話せ、恥ずかしくて聞けないような話が聞けた <程よい距離感で他のパパママとの思いが共有できる場> ・他の人の話を聞くことができ共感し安心した ・普段交流する機会はあまり無いので交流できて良かった ・程よい距離感で安心できた
	<親になることを考える良い機会>	・「どんなパパママになりたいか」について考える良い機会だった ・改めて親になる自覚ができた
	<動画や沐浴テキストなどの教材のわかりやすさ>	・わかりやすい動画で大体の流れを見てから実施できたことでよく覚えられた ・手順がはっきり示されていてとても分かりやすかった
	<沐浴実践により不安の解消>	・実施しながらコツや方法をわかりやすく教えてもらえても分かりやすかった ・すごく難しいと思っていたが、練習ができイメージが付き不安が少し解消した
沐 浴 体 験	<沐浴を実施したパパの意見>	・子育ての自信につながった。早く実践したい!! ・沐浴は想像以上に大変だったので協力していきたいと思った
	<沐浴を実施するパパを見守っていたママの感想>	・夫がしっかり話を聞いて丁寧に行う姿が見れてほほえましかった ・夫が思っていたより上手だったので協力してやっていると実感!! ・パパが沐浴体験できて、気持ちをわかってくれてよかった ・普段以上に気遣う姿が見られて嬉しく思った
	<一緒に子育てしていく気持ちの変化>	・一緒に子育てする大切さや素晴らしさがわかり、二人で愛情を注ぎたい ・もっと夫に頼っていい、任せていいんだなって思った ・お互いやりにくいところや慣れない所などを補い合おうと思った
	<費用>	・500円以上の知識と経験ができ、2000円位の価値があると思った ・長岡市の実施回数が少なく、市で実施できたら無料なので不公平感がある

表6 学びたいこと (n = 22 複数回答あり)

学びたいと思ったこと	具体的な内容	件数
産後の育児を知りたい	子どもの病気や発達に関する事	10
	授乳に関する事	8
	離乳食に関する事	4
	父親としての子どもとの関わり	1
妊娠中の相談に乗ってほしい	栄養や食事に関する事	1
必要物品の情報整理		1

\*パパとママの区別をせず集計した。

## 7) パパママが学びたいと思ったこと

表6は、パパママサークルに参加したパパママが今回の企画以外にも学びたいことがあるのか、また企画で気を使って欲しいことは何かの集計である。

内訳は、「産後の育児を知りたい」が23件、「妊娠中の相談に乗ってほしい」が2件であった。最も回答数の多かった内容は、子どもの病気や発達に関する事であり、「子育てにどのような変化があるのか体験的に活動も含めて教えて頂きたい」、「新生児から1歳までの病気の例や対応等を知りたい」「生まれてからの相談に乗ってほしい」などがあった。次に多かった内容は産後の授乳や離乳食に関する事であった。

## 8) その他の意見(抜粋)

その他の意見としては、「コロナ禍で両親学級や集まりが無い中、主催してくださってありがとうございます」「コロナが無ければもっとこういった機会に参加できたのに、と少し残念ではあった」「パパママの同級会が減ってきているので、コロナ対策を守った上で交流できる場があると参加してみたいです」「コロナ禍でなかなか集まる機会が無いので、できるだけ集まって話がしたい」「きれいな施設で、経験豊富な方がたくさんいるので心強い」「参加することで旦那さんと赤ちゃんを育てていくのがこれから楽しみで一杯になりました」「助産師という仕事は、私達プレママにとって、とても素敵で素晴らしい職だと思いました」「出産がドキドキだけど楽しみです」「とても満足な内容だったので長岡市からの助成があることを願っています」などがあった。

## V. 考察

### 1. 長岡崇徳大学版パパママサークルに参加したパパママの子育てニーズ

2021年度(令和3年度)の1年間で本学のパパママサークルに参加した77組のパパママのうち、92.8%が長岡市からの紹介であった。参加者の満足感が高く、93.4%の方が満足と答えており、不満やどちらかと言えば不満と答えた方はいなかった。このことから、本学は市のパパママサークルに参加できなかった多くのパパママに、満足感の高い育児体験の場を提供することができたと言える。

パパママサークルではアイスブレイキングの時間を設けている。今回のアンケートで、パパママは他者との交流や自分の思いを口に出すことで改めて「どんなパパママになりたいか考える良い機会だった」と感じられることがわかった。「普段交流する機会はありませんので交流できて良かった」という感想からは、産前教育を通して得られる妊婦同士の交流が十分には得られない状況を知ることができた。またパパママサークル同窓会に参加する最多理由が「情報共有や悩みの共有が可能な、交流のきっかけを望んでいる」であったことから、パパママは交流の場を求めていることがわかった。

次に、パパママは、実際に沐浴体験をしたことで育児は想像以上に大変であることを実感していた。ママは、パパがしっかり話を聴いて丁寧に沐浴する姿や、普段以上に気遣う姿を見ることができほほえましく感じていた。更に、「パパが沐浴体験できて、気持ちをわかってくれてよかった」という思いや、「もっとパパに頼りた感覚を得ていた。沐浴体験はパパママにとっ

て「一緒に子育てする大切さ素晴らしさがわかり、二人で愛情を注ぎたいと思った」と表現されたように、共に育児していく気持ちを醸成させたと考えられる。これらの事から、パパママサークルでの育児体験は、夫婦が互いを理解し労わりながら共に育児するための素地作りに役立ったと考えられた。

また、多くのパパママは、プログラム構成の適切さを感じていた。体験型のプログラムは、パパママにとって具体的に子育てを想像することに繋がり、不安の解消や赤ちゃんを迎える心の準備となると共に、夫婦で子育てして行こうという思いを強くしていた。そして、会の雰囲気やスタッフの接し方にも心地良さを感じていたことがわかった。本学のパパママサークルは、2～3組に1名の教員および世話人が沐浴を担当しており、待ち時間の有効活用のために、他のスタッフおよび学生サポーター養成講座を受講した学生が、パパママの育児体験や妊婦ジャケット装着を支援している。「学生ボランティアが受付前から優しくしてくださって有難かった」「学習のスピードや量と内容が丁度良く、小人数の指導でとてもよく理解できた」との感想から、パパママの望むような対話と体験、そして接遇が提供できていると考える。

子どもを産み育てにくい社会背景の中で、将来を担う子どもの心の健やかな成長のためにパパママの心の健康は特に重要である。周産期看護の基盤となる考え方には、尊重・安全・ホーリスティック・パートナーシップという4つの特徴を有したWomen Centerd Careの原則がある(有森, 五十嵐, 片岡他 2015)。女性とその家族は医療者から温かく、尊敬と尊厳を持って接せられるべきであり、そのようなケアを受けた女性の方がWomen Centerd Careの認識が高く、マタニティブルー尺度の点数が低い(飯田, 2018)との報告もある。本学パパママサークル担当者が実施してきた、外部者を迎え入れる接遇を含めた諸々の配慮は、女性とその家族に温かく尊厳をもって接するという、この原則

を保障するものであったと評価できるのではないだろうか。

## 2. 長岡崇徳大学版パパママサークルの役割と今後の課題

妊娠中から他者との会話を控えた生活は孤独な育児を促進させ、子産み・子育て世代の不安やストレスを増強させかねない。日本の子育て世代を取り巻く環境は、核家族化の進行、夫の帰宅時間が遅く育児に占める時間が極端に少ないことによる孤独な育児、育児教育費に占める割合の増大による経済的・時間的・心理的余裕の欠如から来る子供を産み育てにくい社会背景など社会的な問題も指摘されている(吉田, 2017)。このような時代だからこそ、安心して子産み・子育てできる環境が保証されるために、今後も親子を取り巻く関係者が立場を超えて協力し、パパママの交流を促進させる場を作っていくことが必要だと言える。

今回、パパママのニーズとして、育児不安を軽減したい、他のパパママと交流したい、実際に体験して沐浴方法を学びたい、という子育てニーズを知ることができた。一方でパパママの感想には、「長岡市の枠に入れず困っていたので、このような会があって感謝しています」、「長岡市のパパママサークルの実施回数が少ないのが残念であり、そちらがあれば無料なので不公平感がある」など、長岡市のパパママサークルの実施回数を増やして欲しいという希望があることもわかった。パパママのニーズに応えるべく、長岡市の受け入れ枠は2022年4月から1.5倍に拡大される。その結果、今後は、本学が市の受け皿としてパパママサークルを開催する機会は減るかもしれない。

しかし、Women Centerd Careの原則に関与できる人財には子育て支援に関心のあるすべての人が挙げられる。本学は、私学としての自由な雰囲気を活かしながら、子育て支援に関心のある教員・学生・事務職員の力を十分に発揮しWomen Centerd Careの原則を保障してきた。



また、パパママサークルに学生サポーターが参加することにより学生教育にも繋がっている。すなわち、本学のパパママサークルは教育機関として地域貢献の一端を担うと共に、次世代育成の役割も果たしていると言える。

21世紀の母子保健の国民運動計画「健やか親子21」では多様性を認識した母子保健サービスが展開されることを踏まえ、日本全国どこで生まれ、どのような状況でも一定の質の母子保健サービスが受けられ、すべての子どもが健やかに育つ社会の実現を目指している。そのために子どもの健やかな成長を見守り育む地域作りが設定され、取り組まれてきた（厚生労働省、2014）。今後も、大学としての社会貢献の役割を自覚し、大学の強みを活かした地域作りの一端を担って行くことが、本学の周産期地域連携に果たす役割と言えるのではないだろうか。

## VI. おわりに

今回の報告書では、パパママサークルの実践経過とそこから見えるパパママの子育てニーズの一端をまとめることができた。長岡崇徳大学は、「母子・家族・支援者が共にあゆむ周産期母子のメンタルヘルスに関する支援事業」を展開している。今回明らかになったパパママサークルに参加したパパママのニーズは、今まで当然に行われてきた営みであり権利であった。社会全体を見渡すと、少子高齢化、仕事との両立、新型コロナウイルス感染症、性差社会などの理由から孤独で不安な育児に悩むパパママの存在もある。これからも不安に悩むパパママを様々な形で応援し、子育て支援事業の継続・発展の一端を担っていく必要がある。

## 謝辞

子育て支援事業を温かく見守ってくださった長岡崇徳大学の皆様、長岡崇徳大学版パパママサークルをご提案くださり、長岡市のパパママ支援の協働の機会を与えてくださった長岡市教育委員会子ども子育て課様、協力参加してくださった大学関係者の方々、学生の皆さん、そして、パパママサークルに参加してくださったパパママ当事者の皆様に深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- 有森直子, 五十嵐ゆかり, 片岡弥恵子他 (2015). 母性看護学 I 概論 (第2版). 59-61, 東京都, 医歯薬出版株式会社.
- 飯田真理子, 堀内成子, 永森久美子 (2018). 妊婦健診の“女性を中心としたケア”の認識とマタニティブルーおよび産後うつ病との関連. 母性衛生学会誌, 59(1), 81-89. 厚生労働省(最終アクセス 2022年11月8日). 健やか親子21 (2次). <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000067539.pdf>
- 長岡崇徳大学子育て支援事業 (2021). 母子・家族、支援者が共にあゆむ周産期母子のメンタルヘルスに関する支援事業報告書, 令和2年度新潟県大学魅力向上支援事業報告書. 1-89.
- 吉田啓子, 鈴宮寛子, 山下洋 (2017). 平成28年度子ども・子育て支援推進調査研究事業産前産後の支援のあり方に関する調査研究. 妊産婦メンタルヘルスクエアマニユアル～産後ケアの切れ目ない支援に向けて～. 4-21, 東京, 公益社団法人日本産婦人科医会.